

あけまして おめでとうございます

あららみ

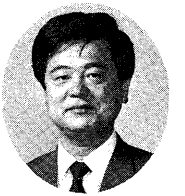
昭和六十三年元旦号

発行者
村上青年会議所
編集者
総務広報委員会



♣青年会議所とは♣

青年会議所（JC）は、明るい豊かな社会の実現を理想として集まった20歳から40歳の青年の団体です。皆様と共に村上のことを考えていきたいと思ひます。



理事長
加藤清司

明けましておめでとうございます。日頃は青年会議所運動に御理解と御協力をいただきまして大変ありがとうございます。心から御礼を申し上げます。さて私共青年会議所の綱領に「われわれJCは社会的、国家的、国際的な責任を自覚し志を同じうする者相集い力を合わせ青年としての英知と勇気と情熱を持って明るい豊かな社会を築きあげよう」と唱われております。したがって私共の運動の目標は明るい豊かな社会の実現であります。各地青年会議所はこれを受けまして明るく豊かな地域の実現のための運動を展開しているわけです。

さて年の瀬が迫る頃になると考えさせられるのが、近年の流行歌手の寿命の短かさです。一昔前までは歌手の寿命は長く、紅白歌合戦の顔ぶれは毎年ほぼ決まっていたものでしたが近年は、水面に浮かぶうたかたの如しであります。パッと華々しくデビューしスポットライトの中でインタビュを受けた人がいつの間にか過去の人になります。又歌手に限らず商品も言葉までも変ります。昨日まで大変価値があったものが今日は全く価値が無くなったり又逆に、昨日の屑が今日の黄金にもなります。このように激しく変化の中にあつては的確な対応が無ければ変化の被害者になってしまいます。さて地域も又大きな変化の渦中にあります。政治経済そして文化においても従来のように中央依存中央偏重指向だけでは地域はなりたたなくなり、中央から自立し独自で発展して行く道を求めていくことが必要な時代になっております。又当然起こつて来る地域間の競争に勝ち抜いた地域が豊かになれる時代でもあります。このように地域の實力が問われるなかで村上はどうのように対応して行くのでしょうか。今村上に最も必要なことは、この対応策（地域ビジョン）の確立とそれに対する市民の合意であります。私共は地域の発展は調査・分析・企画・行動・評価のサイクルの連続の中にあると信じております。今日まで行政をはじめ各種団体、



直前理事長
川上伊登志

企業として個人においてもさまざまな企てがなされてきましたが、これを客観的に評価し、その上になつて現状を調査、分析し明るく豊かな村上の実現のための企画（地域ビジョン）を確立してゆく事が急務だと考えます。私共村上青年会議所は村上の強みを生かしたビジョンを自分達なりに追求して参りたいと考えております。又、ビジョンを持つ多くの方々と意見交換し、共有のビジョンの確立に努力をして参りたいとも考えております。

本年も皆様方の御指導御鞭撻を心からお願い申し上げます。

新年明けましておめでとう御座居ます。昨年「一新紀元、今こそ青砥の心」をスローガンに創立20周年の関連事業を始め各種委員会事業を中心に活動を行つてまいりましたが皆様方から多大なる御理解、御協力を賜わり新しい年を迎えます本日感謝の気持ち一杯で御座居ます。本日に有難とう御座居ました。村上青年会議所にとって意義深い一年間であつたと思ひます。私も大勢の方々と出会い様々な角度から勉強させて頂く機会に恵まれ生涯忘れ得ぬ経験をさせて頂きました。そして地域に於ける青年会議所活動がその目的をさらに明確化することにより極めて意義の有る団体になり得ることを強く感じた次第であります。世界に対する日本の役割等が論じられる中、その重要性を認識しながら「明るい豊かなまちづくり」を基本的テーマとする青年会議所は、ハイアムニティ高度快適社会の実現と高度生産性社会の実現とが正比例するバランスのとれた郷土の発展を望むものであります。現在「私達のまち」の市民総生産は全国の市町村の中で何番目に位置しているでしょうか。

村上青年会議所は新しいリーダーのもと「明るい豊かなまちづくり」の為本年も努力を致します。皆様方の御指導の程をよろしくお願い申し上げます。

創立20周年記念事業



創立20周年という 一年を終えて

野 沢 繁

62年度20周年企画部会部長

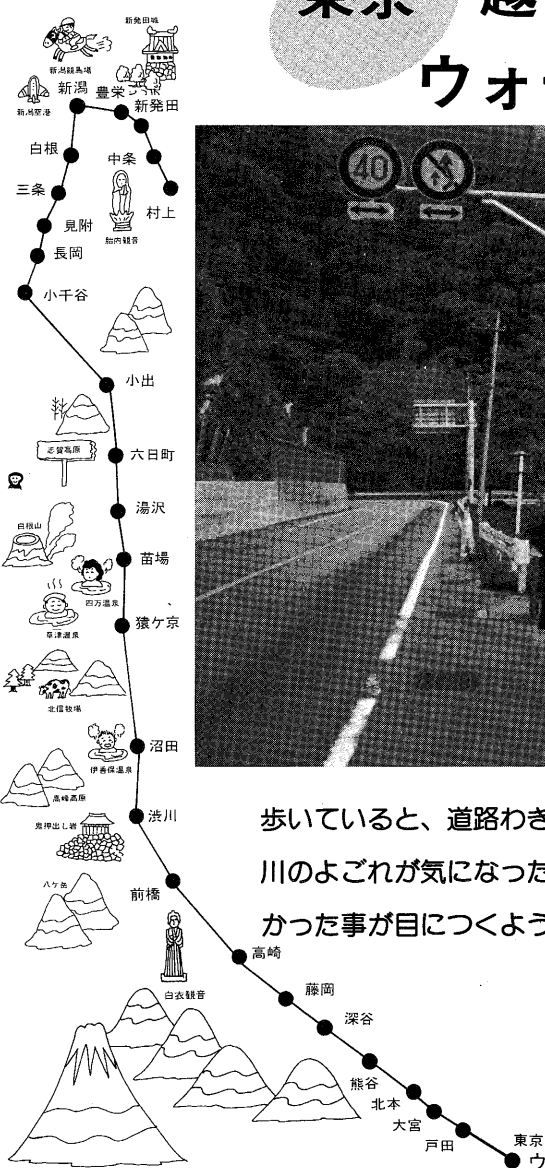
昨年、私達村上青年会議所は市民の皆様の暖かい御支援を受けながら創立二十周年という節目の一年を無事終える事が出来ました。

日頃の御理解、御指導に深く感謝する次第であります。5月に13日間をかけて行ないました「ウォークリレー」口先だけごとにかく先走ってしまう若い我々が自分の足で大地を歩むという行為を通じて自からを見つめ直し、このまちを少し離れた所で考え、このまちに僅かながらも小さなほこりを感じながら各地で交流を重ねて来ました。そして8月、その小さなほこりについて皆様と共に考えてみたいと、三面川・三面川の鮭、それらを育ててきた私達のまちを中心にオープンに近い「サーモンパーク」にて「サーモンシンポジウム」を開催しました。

10月、瀬波ビーチランドにおいて3日間にわたり会場設営をして県内外各地の青年会議所メンバー、来賓の方々に50匹の鮭を水槽に泳がせてつかみどりを楽しんでいただき、又、このまちの鮭・酒を味わってもらい手づくりの20周年記念式典を挙げる事が出来ました。式典において放ったこのまちの小さなほこりが、やがて各地から大きなほこりとなって三面川の鮭のように戻ってきますように、今年も地に足をつけて一歩ずつ歩みます。



東京—越後村上 ウォークリレー



歩いていると、道路わきに空カンが捨ててあったり川のごれが気になったりし、今まで見向きもなかった事が目につくようになりました。

サーモンシンポジウム (第3回明日の村上を語る会)



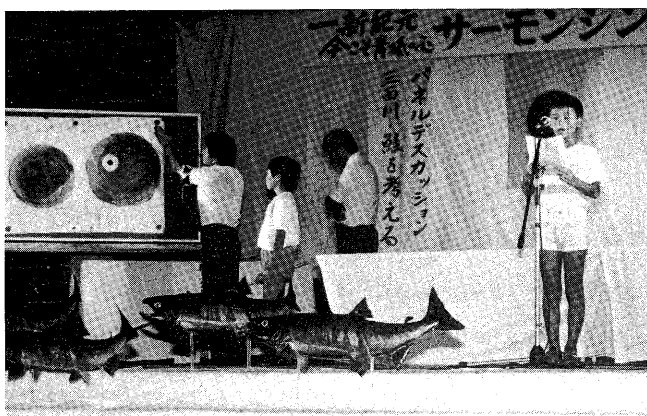
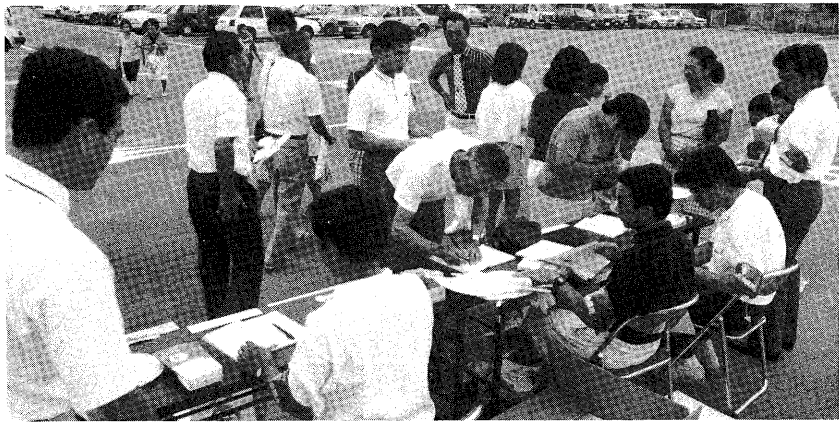
開催前に小雨もばらつきましたが多くの皆様に参加していただき大成功におわりました。

村上青年会議所

サーモンシンポジウム

三面川が、「ふるさと」の川モデル事業」の指定を受けたというニュースは、村上市民にとって大変うれしいことでした。この事業は今まで治水中心だった河川管理の考え方から水辺を水と緑の空間としてとらえ街づくりと一体化した河川整備を行なうもので、64年度から5ヶ年計画で、着手されます。20周年記念の一貫として昨年8月に行なわれた、サーモンシンポジウムもまさに、人間と自然の調和のとれた関係を探りながら、うろおいのある村上を作る一助にしたいと考え行なわれました。当日は、大勢の皆様の賛同を得て、村上小学校五年生の鮭の学習成果の発表、須藤和夫氏による「今こそ青砥のころ」と題しての基調講演、パネルディスカッション、三面川慕情の合唱と、もりだくさんでした。

特にパネルディスカッションには、各方面からのパネラーの貴重な意見は、大変意義あるものでした。そこから下記の提言が、満場一致で採択されました。



提言書

わたしたちは、地域社会への貢献をめざし、豊かな自然を守り、先人の築いた歴史・文化を継承し、産業を発展させるよう努力します。村上の誇るべき鮭の歴史・文化・産業を理解し、次代におくる為、現状を正確に把握し、今、何をなすべきかを、ここに提言致します。

- 一、三面川を汚さない市民意識を定着させましょう。
- 二、三面川が清く豊かになるように下水道の整備を促進しましょう。
- 三、先人・青砥武平次が示されたように地域に根ざした産業を育てましょう。
- 四、サーモンパークを単なる公園としてではなく村上の文化・教育・観光の象徴として位置づけ、積極的に活用しましょう。

